指導と評価の計画 (全6時間)

理解・でしている。	過	ねらい 主な学習活動	時	学習への支援	評 国語への関心・意欲・	<u>価規</u> 書く能力	準 言語についての知識
にないたいになったい。	程		間		態度		・理解・技能 分かりやすい表現
ことと下に 大きな	導	いたいことや伝えたいことを決め、その裏付け、根拠)となる具体例を考えることができるようにする。「みんなで仕上げる取材メモ」を使い、言いたい	1	たいことや伝えたいことを考えられるように、「みんなで仕上げる。材メモ」書きやすいように、教師の実得を方を、て取材メモの表表を対して、大きないのでは、	取材メモ」について 書き方を理解し、取 り組んでいる。(「み んなで仕上げる取材	る取材メモ」に、 言いたいことや伝 えたいこと、具体 例を書いている。 (「みんなで仕上	を使って、言いた いことや伝えたい ことを書いてい る。(「みんなで 仕上げる取材メ
「	入	ことや伝えたいことと選 んだ具体例をプリントに		説明する。 児童にこんなことを書けばいいのかめに、とうっなっためるに、「文でたけっためいで、「文では、「マブリント・手がかりでリント・手がかりでしまった。	取材メモ」に積極的 に取り組もうとして いる。	えたいこと、具体 例を書き、裏付け となる具体例につ いて考えている。	·
		「ユムかで仕上げて取け			には、個別に説明し ながら具体例を思い 起こさせる。	がら、書ける内容 を引き出し、意図 的にほめるように する。	
仕上げる取材メモ、高になく書から、高をおり、	通	メニュー は	1	動を行えばいいのか理解を行えばいいのか、師をしいというではいいで、からいでが、明められてが、明めらうがあり、見くことを行うにとなっています。 また はい かい はい	取材メモ」について 観点 に沿って、見 合う活動を行ってい る。(「みんなで仕 上げる取材メモ」、	るいたがしていたというでは、 を見いてもいるになってなり、 を見いである。だのでいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	とになっています。 ではないでは、 ではないでは、 ではながらいる。 ではながらいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
交換し、そ本医に「なったのでは上げする。		仕上げる取材メモ」を見合い、具体例は「言いたい見体例は「言いたいことでいる。 の裏付けとして適切かなうか、また、最も適切な		・司会進行役を決める。 ・よく書けている点をいる めたり、書ける点をりり やすくしたりすること バイン	を行い、自分の文章 を読み直しながら 「なか」の構想を立	実を書き、言いた いこと・伝えたい ことにつなげてい	文末表現や漢字などに気を付けて、 構想を立てている。
プリントのふろく」を基はます。に、教師が実例を見せない。ではなか」を書けるように、する。で仕上げ文すと、では、有作文プリを基にしてなり、を書けるように、するので仕上げ文をを表し、接続をできる。とを言うとないます。に、「本の大力」を表してなり、一般でなると、接続をできる。とのでは、一般でなると、を表現の仕方を記述明する。と思す。と、「なか」、を書になか」を書います。と、「で本の大力」を書に、「なか」、を書います。と、「で本文プリントのふろく」を表し、「ながいって、大力」、「ながいって、大力」、「なが、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「ながら、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、」」、「なが、アンリント、「なが、アンリント、「なが、方で、一方、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」」、「ない、」、「ない、」」、「ない、」、「は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、		交換し、それを基に「なか」を書くための構想を「みんなで仕上げる作文リントのふろく」を使って立てする。		するよう意識付けする。 児童が書きやすいよう に、「 みんなで仕上げ る作文ブリントのふろ く」を用意する。	な児童には、観点に ついて具体的に助言 する。	のみを書くことを 伝え、質問しなが ら事実を思い出す よう助言する。	
の準備	見通し2	ブリントのふろく」を基 に、「なか」を書けるよ うにする。 「みんなで仕上げる作文 ブリントのふろく」を基	1	に、教師が実例を見 ながら説明する。 児童の文ように語、 見なな、 を を を を は が に や な を を を を を を を を を を を を を を を を を を	作文プリントのふろく」を基に、「なか」 を書こうとしてい る。(「みんなで仕 上げる作文プリント	でなった。ないないでは、ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	文末表現や漢字で表現を付けまれる。いでは、一てないでした。「ないでした。」のでは、一でないでは、一でないが、一般を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を
リント・すがかりづよ	の 準			る作文プリント(なか版)」を用意する。 児童にこんなことを書けばいいのかとに、を書けなっために、「文でなったがに、「マブ	し、接続語に気を付けながら「なか」を 仕上げようとしてい	具体例を基にして、 言いたいことや伝 えたいことに説得 力をもたせながら	文末表現や漢字などに気を付けて、 書いている。
プリント(なか版)」を 基に発うって相 互に見合う活動を行い、文 章に修正できるように 意。 理に修正できるように る。 理に修正できるように る。 理に修正できるように る。 理が見合う活動を活に が成り」を基に、ように修正している。 見をある。 に治っている。(「るなかしなで仕上げるかり」、観察) を正しやすいように、がらいとをといる。 を変が見合うに、があり」、観察) がなどで仕上げる作文プリント(なか版)」、観察) をいる。(「るながのり、観察) がなながり、観察) をいたしている。(「るながり、観察) がながり、観察) をいたいことを をいたいことを 見付けに見立る場所を 見付に児童が修正する場所を 見付に児童が修正する場所を 見付に児童が修正がよった。 ないがら言いたと言の流れは適切かどうかなどを言見交換し、 ないではでは、する。 に一ででは、なかいりではながらいる。 を表にしている。 を表にしている。 を表にしている。 を表にしている。 を表にしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えしている。 を表えてもながらしている。 を表えしている。 を表えてもながらいたは指摘している。 を表えをしたいる。 を表えをはいるをとした。 を表えをはいるを修正している。 を表えをとしる。 を表えをではながらいる。 を表えをは、 を表えをといる。 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをとしる。 を表えをにてきるとをに、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を表えをは、 を、は、 を、は、 を、は、 を、は、 を、は、 を、は、 を、は、				リント・手がかりブリ ント集」を活用するよ うにする。	児童には、教師が質問することで、書き方が分かるようにする。	のみを書くことを 伝え、質問しなが ら事実を思い出す よう助言する。	習った漢字や主述の関係の誤ったところを指摘しながら、具体的に説明する。
文体例から言いたいことや 児童が修正する場所を ほかの児童の文章を 指摘されたことを 分かりやす 大変の流れは適切かどう かなどを意見交換し、それを基に「なか」を修正し合う。 児童が忘れ物をした際 見合う活動に消極的 指摘されたことを おおいりですく観点を提示する。 児童が忘れ物をした際 見合う活動に消極的 方まく理解できな できなくさないよっに、赤ベンや辞書を 大変児童には、指摘の 方まく理解できな の関係の誤 の関係の誤 であるを指摘	通	プリント(なか版)」を 基に見会う活動を行い、文章に見合うかりやすい、文章に見合うかりとうにする。 では、なって、「みんなでは、なって、「カーのなりでする。 がによって、「カーのなりでする。		動表でを囲い、にう を基にいた、にう を囲い 見がる。が行る うそいら 見い 見い 見い 見い 見い 見い 見い 見い 見い が 見い 大郎 一次 に 一次 で 一次 で 一次 で 一次 で 一次 で かんし	作文プリント(なか 版)」を基て見合(なか に沿っている。(で 動をして仕上(なか がカント(なか)	か版)」を基に、 読みやすくなるように修正している。 (「みんなで仕上 げる作文プリント	習った漢字や主述の関係にしている。 (「みんなでしてでした。 (「みんなプリン、 (「るなか版)」、 (察)
し合う。		体例から言いたいことや 伝えたいことを書いたので 文章の流れは適切か かなどを意見交換し れを基に「なか」を修正		児童が修正する場所を 見付けけ児童の文分に 事前にんでおきな分かり やすく観点を提示する。	見ながら、声に出し て指摘している。	基にして、自分の 考えを持ちながら 修正している。	
		し合う。		児童が忘れ物をした際 に意欲をなくさないよ うに、赤ペンや辞書を 事前に用意しておく。	な児童には、指摘の 仕方を個別に助言す る。	うまく理解できな い児童には、理解 するための手助け を個別に行うよう にする。	習った漢字や主述の関係の誤ったところにあるとはいい。

- 1 -

過	ねらい	時		評	価 規	準
程	主な学習活動	間	学習への支援	国語への関心・意欲・ 態度	書く能力	言語についての知識 ・理解・技能
見通	修せて「おった」にありまれる。 作せて「知るをで、合いした」におりき沿をで、合いでは、 では、まに、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	1	「がに、」 いまかして いまかになって いまかにつき いまがして いこつき においにつき においにつき においにつき においにつき においにつる においにる。 にがいにる。 にがいに。 にがいに。 にがいに。 にがいに。 にがいに。 にがいに。 にがいに。 にがにる。 にがに。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがにる。 にがい。 にがし。 にがし。 にがし。 にがし。 にがし。 にがし。 にがし。 にがし	「みんぴけん」 作文で仕上げる体 作文でいた。 でといいでは、 かってでいる。 でないでは、 かってで仕上がでいる。 では、 がいたがでいる。 がいたができる。 がいたができる。 はいたができる。 とったができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 はいたができる。 とっと。 とったができる。 とったができる。 とったができる。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっ	「みなプログライン で仕上ります ではな でせん でけん な で で かな で りょう な で りょう いっぱい いっぱい かい	の関係に気を付け て修正している。 (「みんなで仕上 げる作文プリン
ل 3	り」「題名」を文章に書く。 班になって、「みんなで 仕上げる作文プリント全体を見合い、文章全体を の流れは適切かどうかな		か」を受けて、テーマ について、テーマえ についての説明する。 「題名」は何たないば いいか戸惑いにないい に、「なか」にいいて	ほかの児童の文章を 見ながら、声に出し て指摘している。	指摘されたことを 基にして、自分の 考えをもちながら 修正している。	分かりやすい文章 になることを意識 して修正してい る。
	どを意見交換し、それを 基に修正し、清書する準 備をする。		書かれていることをを参考にするよう説明する。 第4時と同じように見合う活動ができるよう説明する。	見合う活動に消極的 な児童には、指摘の 仕方を個別に助言す る。	指摘されたことを うまく理解で、理解しい。 い児を重にめの行う を個別に にする。	習った漢字や主述 の関係の誤ったと ころを指摘しなが ら、具体的に助言 する。
ま	「みんなで仕上げる作文 プリント」全体を基に、 原稿用紙に清書できる。 「みんな」を上げる作文 プリント」を基に、書 学体を原稿用紙に清書	1	原稿用紙の使い方を関 違えなて説明まで、ここでは、ここでは、ここでは、ここでででででででででででででででででいる。 をでいるでは、ここででは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、ここでは、	「みんなで仕上げる 作文プリント」を基 に、清書している。 (清書、観察)	原稿用紙の使い方 に気を付けながら 清書している。(清 書、観察)	字配りや字を丁寧 に書くて書という 気を付けて書ももっ て、清書している。 (清書、観察)
とめ	る。 ここまでの活動を振り返り、自己評価を次回の書 く活動に生かせるように		意する。 児童が書きやすいよう に、選択肢と記述を交 ぜた項目を作り、次回	作文プリントを基に 集中して清書を仕上 げようとしている。	清書を仕上げ、文 章を見直している。	ー字一字に気を付けて丁寧に清書している。
CO	く活動に生かせるように 「作文振り返りプリント」 に、書き入れる。		でに項目を作り、次凹の書く活動につなげられるようにする。	清書が仕上がるよう 個別に声をかける。	原稿用紙の使い方が誤っている児童には、図表を示しながら、個別に助言する。	字の上手さよりも 丁寧さに意識をも たせて清書を仕上 げるよう助言す る。
	は、おおむね満足できる状态	況・	態度は、十分)満足できる状況・態度	は、努力を要	する状況への方策

【本時案】
 第1時

 (1) ねらい 書くテーマに沿って、言いたいこと・伝えたいことを決め、その裏付け(根拠)となる具体例を考えることができるようにする。
 (2) 準備 (教師)「みんなで仕上げる取材メモ」・「手がかりプリント集」「みんなで仕上げる取材メモ・拡大図」(掲示用) (児童)筆記用具

 (3) 展開(6時間中の1時間目)
 〇 翌 活 動 目体の評価規準

(3)	展開(6時間中の1時間目) 学習指導()及び留意点(*)	学 習 活 動	具体の評価規準
確認・	十分満足できる状況・態度の児童への支援()	T A M	(評価方法)
電談・意欲付け	「環境問題をテーマに意見文を書こう」をテーマに作っ	文を書こう。	
(5分)	今後の見通しを立てられるように、授業で使うワークシートを見せながら、具体的に説明する。また、本時が作文を書く上での取材にあたる過程であることを説明し、その大切さを話す。	学習の流れと本時のめあてを知る。	
	環境問題について読み手に伝えたいこと(どんな意見る	を言いたいか)を書こう。	
	自分の言いたいこと・伝えたいことが書きやすくなるように、自分で環境問題について考えてから書ようにする。 *「手がかりプリント集」を参考にしながら考えるようにする。 *言いたいこと・伝えたいことが、具体例を挙げているうちに変わってしまうことも考えられるので、それでもいいことを伝え、書くようにする。 *活動、少しずつ深まっていくこともあることを伝え、まずは「みんなで仕上げる取材メモ」に書くことを優先させるよう話す。	環境問題について、自分が何を言いたいか・伝えたいか考え、「みんなで仕上げる取材メモ」に書く。	「み取で、 ・ なが、 ・ なが、 ・ は、 ・ は、 、
	自分の言いたいこと・伝えたいことの裏付け(根拠)。 具体例か考え、選ぼう。	となる具体例を書き、どれが最も適した	【書く能力】 「みんなで仕上げ る取材メモ」に言 いたいこと・伝え
展 開(35分)	環境問題について、具体例が書きやすくなるように、「みんなで仕上げる取材メモ・拡大図」(掲示用)を使い、実際に教師が記入の仕方を示してから、書くようにする。 * 教師の実例は、なるべく児童が想像しやすいように児童の実感のあるものを数多く挙げるようにする。 * 「手がかりプリント集」を参考にしながら書くようにする。	「みんなで仕上げる取材メモ」を使って発想を広げ、思いつく具体例を3つ以上考え書く。	たいこと・具体例
	*環境について考えたこと、自分が実践していること、その他について、どんなことでも差がないことを伝え、自由に発想を広げるようにする。 *できるだけ3つ以上の具体例が書けるよう、書けない児童には個別に言葉かけを行う。(教科書のごみ問題のこと、地域の環境のことなどに目を向けるよう助言する。) 自分の言いたいこと・伝えたいことの裏付けとして、	書いた具体例の中から、自分の言いた	【言語事項】 分か使っとをいことをいことを(「げる) をしているとをでいるとをのようである。 との分析)
	適切な具体例が選べるよう、「みんなで仕上げる取材メモ・拡大図」(掲示用)を使い、実際に教師が選び方を示してから、書くようにする。* どのように選べばいいかについて、以下について説明する。	いこと・伝えたいことの裏付けとなる具体例を選ぶ。	
	なるべくほかの人が選んでいない、自分独自のものを選ぶ。 なるべく書き進めていくのに容易な具体例を選ぶ。 読み手が分かりやすい例を選ぶ。 * 具体例が書けなかった児童や具体例の選び方に自信のもてない児童は、次時の相互に見合う活動で班の人に助言してもらいながら進めていくことを説明し、安心して活動に取り組めるようにする。		
	*選ぶことに戸惑っている児童には、個別に声かけを 行う。(児童の書いた具体例をを意図的にほめなが ら、自信をもって活動に取り組めるようにする。) 自分がなぜその具体例を選んだのか、説明できるよ うに助言する。		
日常化 一般化 (5分)	児童が本時について振り返りやすいように、本時の活動が発想を広げることをめあてにして行ったことを改めて説明する。 * 発想の広げ方について、簡単に説明する。 * 今回のテーマ以外の作文についても応用できることを話す。	本時のまとめを聞き、本時を振り返る。	
	次時の活動について分かりやすいように、ワークシートを示しながら説明する。 * 班による活動、自分自身で進めていく活動について、分かりやすいように分けて説明する。 次時の活動に本時の活動が生かせるように児童の「みんなで仕上げる取材メモ」を回収し、検証する。	次時の活動について知る。	

第2時(見通し1にかかわる授業)
 (1) ねらい
 「みんなで仕上げる取材メモ」を基に、観点 に沿って相互に見合う活動を行い、それを基に「なか」(具体例と言いたいことをつなけて書く)を書くために、構想を立てられるようにする。
 (2) 準備
 (教師)「みんなで仕上げる取材メモ」・「みんなで仕上げる取材メモ・拡大図」(掲示用)・「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」・「手がかりプリント集」・赤ボールペン(6本)
 (児童)筆記用具
 (3) 展開(6時間中の2時間目)
 (3) 展開(6時間中の2時間目)

(3)	展開(6時間中の2時間目) 学習指導()及び留意点(*)	学 習 活 動	具体の評価規準
740 ≟77	十分満足できる状況・態度の児童への支援()		(評価方法)
確認・ 意欲付 け (5分)	めあてをもって本時の学習ができるよう、班で見合う活動を行うことと「なか」を書くための構想を考えるワークシートを見せながら、具体的に説明する。 * 前時の活動を評価し、本時の活動に生かすように話す。	本時のめあてを知る。	
	言いたいこと・伝えたいことを表すのに具体例がぴった	とりあてはまるかどうか班で考えよう。	
展開	児童が見合うに、「知で見合うに行えばいいのか理解した。「知で見合う確確かりリストルで見合うでで見合うでで見合うででで見合うででで見る。 で、教師の実例は、なるべく児童が想像しやすいように児童の実感のあるものを数多く挙げるようにする。 見合う活動が効率よく進むように、以下のことを行うがのれの配置を工夫する。 明番で行うりょく書けている点をほめたり、と分かりやするとも、はの基本によっているには、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	書き手が書いた言いたいこと・伝えたいことと、具体例について、「班で見合う確かがを基に「みんなで仕上げる取材メモ」を班で見合う。	るいてった材見・察 取て見てなメ合各) はいでもう自 が観合いでもう自 が表うるとはの動の子 に沿をでもう自 がある。 がある がある にいる がある にいる がある にいる がある にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にい
(35分)	える。 班で話し合ったことを参考にして、自分の言いたいこ。 ために、構想を立てよう。	と・伝えたいことと具体例を文章に書く	いて見合ったことを基に、「なか」の構想を立てている。(「なんな。
	児童が言いたいこと・伝えたいことと具体例を効率的に書き進められるように「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」を用意し、構想を立させる。 * 具体例として書きたいことを時間軸に沿って、感想をなるべく書かずに事実でつないでいくよう助言する	言いたいこと・伝えたいことと具体例を「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」に書き、文章の構想を立てる。	
	る。 、		【文ど「立ん文くの 言末になてなプ」様子のる上ト析察 可りである上ト析察 である上ト析察 である上トがの子ののる上トがである。げの・のる上トがの子ののる上トがの子のの子のの子のの子のの子のである。
日常化 一般化 (5分)	児童が本時について振り返りやすいように、本時の活動が文章を書きやすくするために行った時間であることを説明する。 *字数を気にしないで書くために、マス目を入れなかったことを説明する。 *今回のテーマ以外の作文についても応用できることを話す。 次時の活動について分かりやすいように、ワークシ	本時のまとめを聞き、本時を振り返る。	
	ートを示しながら説明する。 * 班による活動が、うまくできた班を取り上げ、分かりやすいようにその要因を話す。 次時の活動に本時の活動が生かせるように児童の「みんなで仕上げる作文ブリントのふろく」を回収し、 検証する。	次時の活動について知る。	

第3時

 (1) ねらい
 「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」を基に、「なか」(具体例と言いたいこと・伝えたいことをつなげて書く)を書けるようにする。
 (2) 準備
 (教師)「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」・「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)」・「手がかりプリント集」・赤ボールペン(24本)
 (児童)筆記用具
 (3) 展開(6時間中の3時間目)
 (40年)
 (50日)

(3)	展開(6時間中の3時間目)		
	学習指導()及び留意点(*) 十分満足できる状況・態度の児童への支援()	学習活動	具体の評価規準 (評価方法)
確 認・ 意 欲 付	めあてをもって本時の学習ができるよう、「なか」 を書くことをワークシートを見せながら、具体的に	本時のめあてを知る。	
け	説明する。 *前時の活動を評価し、本時の活動に生かすように話		
(5分)	、削时の治動を評価し、本時の治動に主かすように語 す。		
	「みんなで仕上げる作文プリントのふろく」を基にして 具体例を、「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)	て自分の言いたいこと・伝えたいことと	
	スかりと、 Who CILLID SIFX フラント (なか版)	に大阪に自いているう。	
	児童が言いたいこと・伝えたいことと具体例を書き	言いたいこと・伝えたいことと具体例	【関・意・態】 「みんなで仕上げ
	やすいように「みんなで仕上げる作文プリント(な か版)」を用意する。	を「みんなで仕上げる作文プリント(な か版)」に書く。	る作文プリントの ふろく」を基に、
展開	*次時には、「班で見合う確かめリスト」の観点 (第 二段階)について見合うことを伝え、それを意識し		「なか」を書こう としている。(「み
(35分)	て文章にするよう伝える。	8 6 2	んなで仕上げる作
	*「手がかりプリント集」を参考にしながら書くよう にする。「手がかりプリント集」には、具体例の書		文プリント (なか版)」の分析・話
	き方・注意点と接続語の使い方を説明したものと教 師が児童の立場に立って書いたものの二つを載せて		合いの観察・各自 の様子の観察)
	おき、それを示しながら書き方を説明する。 *字数にこだわらずに書き進めていくことを話す。		2000
	*書き進めることに戸惑っている児童には、個別に声		
	かけを行う。(児童の書こうとしていることを意図 的にほめながら、自信をもって活動に取り組めるよ		【書く能力】 「みんなで仕上げ
	うに児童に質問しながら、それについて書き進めて いくなどの書き方を具体的に指導する。)		る作文プリントの ふろく」を基に、
	*書き進めることが困難な児童や書くのに自信のもて ない児童には、次時の相互に見合う活動で班の人に		構成に気を付けな がら「なか」を書
	助言してもらいながら進めていくことを説明し、安		いている。(「み
	心して活動に取り組めるようにする。		んなで仕上げる作 文プリント(なか
	自分が書いた文章を、「班で見合う確かめリスト」 の観点 (第二段階)に沿って、確かめてみるよう		版)」の分析・各 自の様子の観察)
	に助言する。 確かめることの終わった児童には、書き換えが必要		
	だと感じた表現については、赤ボールペンで直すよ う伝える。		【言語事項】
	次時には、班で見合う活動を、次々時には、「はじ		文末表現や漢字な
	め」「おわり」「題名」を書くことを伝え、それについての構想を考えておくように助言する。		どに気を付けて 「なか」を書いて
			いる。(「みんな」 で仕上げる作文プ
			リント(なか版)」の分析・各自の様
			子の観察)
	児童が本時について振り返りやすいように、本時の	本時のまとめを聞き、本時を振り返る。	
	活動について以下のことを説明する。 ・文章を書く上で、構成を考えながら書くことが大切		
日常化 一般化	であること。 ・言いたいこと・伝えたいことを読み手に伝えるため		
(5分)	に、「なか」が大切であること。		
	・「なか」を最初に取り上げて書くことによって、書 きやすくなること 		
	* 字数を気にしないで書くために、マス目を入れなかったことを説明する。	次時の活動について知る。	
	* 今回のテーマ以外の作文についても応用できること を話す。		
	次時の活動について分かりやすいように、ワークシ		
	ートを示しながら説明する。 *全員が一生懸命取り組んだことを意図的に評価する。		
	次時の活動に本時の活動が生かせるように児童の「み んなで仕上げる作文プリント」を回収し、検証する。		

(児)	童)筆記用具・国語辞典 展開(6時間中の4時間目)		
	学習指導()及び留意点(*) 十分満足できる状況・態度の児童への支援()	学 習 活 動	具体の評価規準 (評価方法)
確 認 ・ 意 欲 付	めあてをもって本時の学習ができるよう、班で見合う活動を行うことを、ワークシートを見せながら具	本時のめあてを知る。	
け (5分)	体的に説明する。 *前時の活動を評価し、本時の活動に生かすように話 す。		
	言いたいこと・伝えたいことと具体例が分かりやすく	書かれているか班で考えよう。	
	児童が見合う活動をどのように行えばいいのか理解	書き手が書いた言いたいこと・伝えた	【関・意・態】
	しやすいように、「班で見合う確かめリスト」の観 点 (第二段階)について、教師の例を入れて説明 +	いことと具体例について、「班で見合う確かめリスト」を基に「みんなで仕	「みんなで仕上げ」る作文プリント
	する。 *「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)・拡大 図」(掲示用)を用意し、説明する。	上げる作文プリント(なか版)」を班 で見合う。 	(なか版)」を基 に、観点 に沿っ て見合う活動をし
	* 教師の例は、児童が間違えやすい接続語の使い方などを数多く挙げるようにする。	発表者	ている。(「みん」なで仕上げる作文
	見合う活動が効率よく進むように、以下のことを行う。		プリント(なか 版)」の分析・見
	今回の見合う活動は、誰でも気軽にほめたりアド バイスしたりできるよう、発表者を囲んで行うよ うにする。	班で見合う活動を通して、自分の文章 の「なか」に書く内容を修正したり、	合う活動の観察・ 各自の様子の観 察)
展開(35分)	がにする。 机は発表者だけが使い、ほかの三名は椅子だけを 使う。	き足したりする。	余)
(55)3)	司会進行役を置かず、発表は順番で行う。 よく書けている点をほめたり、もっと分かりやす		【書く能力】
	く書ける点をアドバイスすることを、見合う活動の基本とするよう意識付けする。	Total - Indiana	「みんなで仕上げる作文プリント
	班の活動がうまくいかなかったり、意見が分かれたときは、挙手をすること。(教師が支援する)*見合う活動は、「班で見合う確かめリスト」の観点		(なか版)」を基 に、読みやすくな るように修正して
	(第二段階)について行うが、実際に児童の改章 を見て、実態にあった観点を取捨選択したり、つけ		いる。(「みんな で仕上げる作文プ
	加えたりする。(例えば・・・) 一文ずつ見合おう		リント(なか版)」 の分析・各自の様
	・誤字、脱字(ひらがな・漢字) ・習った漢字を使っているか ・「です。また		子の観察)
	・「です・ます」と「だ」はそろっているか ・同じ言葉の繰り返し ・意味がよく分からない文、言葉		【言語事項】
	・一文が長すぎないか (「。」をつけて分ける) 具体例 2 の始まり方を見合おう		習った漢字や主述 の関係に気を付け
	・始まり方が「あれ?」と思ったら次の言葉をつけて、前の文とつなごう		て、修正している。 (「みんなで仕上 ばったさポリント
	「またこんなこともあった。(ありました)」 「次に」「それから」「また」「さらに」 「言いたいこと・伝えたいこと」に具体例は無理		げる作文プリント (なか版)」の分 析・各自の様子の
	なくつながっているか・最初に次の文を付けてみよう		観察)
	「二つのことから~と思った。(思いました)」 「二つのことから思ったことは~。」		
	・「~しよう」で終わっている文は、 「~することが大切だと思う。(思います)」 「 オスペアがまるのではないかくないでしょ		
	「~する必要があるのではないか(ないでしょうか)」 のように、意見を言うように書いてみよう。		
	・二つの具体例の共通点が、「言いたいこと・伝 えたいこと」に書かれているか		
	例 1 …ごみを片づけた 例 2 …自動車の排気ガスが原因だ		
	xごみを分別することが大切だ ごみを分別したり、なるべく自動車に乗ら		
	〜 ないようにしたりという心がけが大切だ。 *見合う活動を通して、修正が必要だと感じた表現に		
	ついては、赤ボールペンで直すよう伝える。 	大吐 大 振 1 2 5 7	
日常化	児童が本時について振り返りやすいように、今日書 いた児童の文章を見せながら評価する。 次時の活動について分かりやすいように、プリント	本時を振り返る。 次時の活動について知る。	
一般化	を示しながら説明する。 *班による活動がうまくできた班を取り上げ、分かり		
	やすいようにその要因を話す。 次時の活動に本時の活動が生かせるように「みんな な人とはるたまずいましたかいに、または、		
	で仕上げる作文プリント(なか版)」を回収し、検 証する。		

第5時(見通し3にかかわる授業)
 (1) ねらい
 修正した「なか」に合わせて「はじめ」「おわり」「題名」を文章に書き、それを基に観点 に沿って相互に見合う活動を行い、文章全体を修正できるようにする。
 (2) 準備
 (教師)「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)(はじめ・おわり・題名版)」・「手がかりプリント集」・「作文振り返りプリント」赤ボールペン(24本)
 (日音 > 等却田目・国籍辞典

	ブリント」赤ボールペン(24 本) 童)筆記用具・国語辞典 展開(6時間中の5時間目)		
(3)	後用(0 时间中の 3 时间目) 学習指導()及び留意点(*) 十分満足できる状況・熊度の児童への支援()	学 習 活 動	具体の評価規準 (評価方法)
確認・ 意欲付 け (5分)	カ の できるんが・ 恋皮の の できるよう、「なか」 めあてをもって本時の学習ができるよう、「なか」 を生かすため「はじめ」・「おわり」・「題名」を書くことや班で見合う活動を行うことを、ワークシートを見せながら具体的に説明する。 * 前時の活動を評価し、本時の活動に生かすように話す。	本時のめあてを知る。	(計1四月7五)
	「なか」の内容を基にして、「はじめ」・「おわり」・「題	名」を、文章に書いてみよう。	
	児童が「はいかり」・「題名リント はじめ」・「おわり」・「題名リント はじめ」を使う。 「はじめ」を使う。 「はじめ」にで住上げるに、「はいりのはいたいというにに、」というには、自分のにいたいるおおだけでは、一マに考えをできる。(感想や考えは、「できる。(感想や考えは、「呼びあり」について書き分の説み手への呼ばなき書くように書き分の読み手することを書くこ、「手がかり集」を使って支援する。 * 書くこ、「手がかり集」を使っていくことを話す。	「なか」に合わせて、「はじめ」・「あり」・「題名」を「みんなで仕上げる作文プリント(はじめ・おわり・題名版)」に書く。	「みんなで仕上げ
	* 子数にこたわらすに書き進めていくことを話す。 「題名」について書きやすいように、それまでに自 分が書いた文章をもう一度読み、内容に関連する題 名をつけるよう話す。 自分が書いた文章を、「班で見合う確かめリスト」 の観点 (第三段階)に沿って、確かめてみるよう に助言する。 確かめ終わった児童には、実際に赤ボールペンを使 って修正するよう助言する。 文章全体が読みやすく書かれているか、班で考えよう。		【「る全や修(げト各書か修(げト各書が作体す正)の名性のでは、よいでプタンをくしか作体す正の子のでは、ないでプタ子のでは、ないでプランをでは、ないでプランをできる。 しょう
展 開 (35分)	児童が見合う活動をどのように行えばいいのか理解しやすいように、「班で見合う確かめリスト」の観点 (第三段階)について、「手がかり集」を使い、教師の例を入れて説明する。 * 教師の例は、児童が間違えやすい誤字・主述のねじれ・句読点の使い方・接続語の使い方などを挙げるようにする。 見合う活動が効率よく進むように、以下のことを行う。 今回の見合う活動も、誰でも気軽にほめたリアド	「はじめ」・「おわり」・「題名」を中心に文書全体を、班で見合う確かめリスト」を基に「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)(はじめ・おわり・題名版)」を班で見合う。 「発表者」	察 【 言語事項】 言語事項】 主た漢気を付って、 修正しなでプルではなって、 (「る全体の にしなでプリ析」
	バイスしたりできるよう、発表者を囲んで行うようにする。 机は発表者だけが使い、ほかの三名は椅子だけを使う。 司会進行役を置かず、発表は順番で行う。 よく書けている点をほめたり、もっと分かりやす く書ける点をアドバイスすることを、見合う活動 の基本とするよう意識付けする。 班の活動がうまくいかなかったり、意見が分かれ たときは、挙手をすること。(教師が支援する) * 見合う活動を通して、書き換えが必要だと感じた表 現については、赤ボールペンで直すよう伝える。	班で見合う活動を通して、自分の文章の記述や内容を修正したり、書き足したりする。	各自の様子の観察)
日常化 一般化 (5分)	児童が本時について振り返りやすいように、今日間にプリントを見せながら評価する。 * なるべくたくさんの児童のプリントを見せる。 * 児童と「やりにくかった」と答える児童がいる。 * 児童と「やりにくかった」と答える児童がの後のの場面がで、その理由を答えるようにし、今後の指導に生かすようにする。 * 原稿用紙の使い方について、簡単に触れる。次時の活動に本時の活動が生かしまうにはじる作文プリント(なか版)(はいまわり・題名版)」を回収し、検証する。次時の活動として分かりやすいように、「作文を記り返りがら説明する。)と、次時の活動としたがら説明する。)と、「現しておくように話す。	本時を振り返る。 次時の活動について知る。	

第6時

 (1) ねらい 「みんなで仕上げる作文プリント」全体を基に、原稿用紙に清書できるようにする。
 (2) 準備 (教師)「みんなで仕上げる作文プリント(なか版)(はじめ・おわり・題名版)」・「手がかりプリント集」・原稿用紙「作文振り返りプリント」・「手がかりプリント集」(児童)筆記用具
 (3) 展開(6時間中の6時間目)
 学習活動 具体の評価規(変価方法)

(3)	展開(6時間中の6時間目)		
	学習指導()及び留意点(*) 十分満足できる状況・態度の児童への支援()	学習活動	具体の評価規準 (評価方法)
確認・ 意欲付 (5分)	めあてをもって本時の学習ができるよう、「みんなで仕上げる作文プリント」全体・「手がかりプリント集」を使ってこれまでの活動を振り返り、原稿用紙・「作文振り返りプリント」を示しながら今日の学習について説明する。	本時のめあてを知る。	
	* 前時の活動を評価し、本時の活動に生かすように話 す。		
	「みんなで仕上げる作文プリント」を基にして、原稿F	用紙に清書しよう。	
	児童が原稿用紙に間違いなな消害できるように、「原稿用紙の使い方」を使って説明する。 * 字数にこだわらずに書き進めていくことを話す。 ・ と表したいらずに書き進めていたり、もうすりと、とを伝え、内容を修正したり、とが見つかった児童には、ようにとををしたいことが見つかった児童には、ようには、ようには、ようには、ようには、ようには、ようには、ように、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	清書を原稿用紙に書く。	【 「
	「作文振り返りプリント」を使って、これまでの活動を	を振り返ろう。	様子の観察)
展 開(35分)	児童がどのように活動を振り返り、記入すればいいのか理解しやすいように、「作文振り返りプリント」の項目について、具体的に説明する。 * 児童が書きやすいように、選択肢と記述を交ぜた項目を作る。 * 本時まシートと活動を思い出しながら記入できる。 * 「作文振り返りプリント」への記入が思うよとを質問しながら書き進めていくよう。に進まないら書き進めていくよ、裏面に今回の活動について自由に文の作文の活動に本時の活動が生かせるように児童の清書と「作文振り返りプリント」を回収し、検証する。	本時までの活動を振り返り、「作文振 り返りプリント」に書く。	【言語事項】 字配明の表示では、 字配明のでは、 学に気がませる。 学に気がいる。 学に気がいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
日常化 一般化 (5分)	児童が本時について振り返りやすいように、「作文振り返りプリント」を、見せながらがんばりをほめるようにする。 * できれば、なるべくたくさんの児童の書いたものを紹介したい。 * 次回の書く活動に生かせるように、様々なテーマについて今回の学習の仕方が生かせることを話して終わりにする。	今回の活動を振り返る。	